

古文ドリル：「奉る」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「奉る」の正体（3用法）

古文の「奉る」は、**直前が体言か連用形か**、そして体言なら**だれが何をする場面か**（貴人に物を差し出すのか、貴人が自分で着る・乗る・食べるのか）を見れば見分けられます。基本は謙譲語ですが、貴人が自分で衣服を着る・乗り物に乗る・飲食物を食べる（飲む）場面では尊敬語になります。

用法	接続・条件	訳	例
① 本動詞・謙譲	体言 （貴人に差し出す物）＋奉る	差し上げる／献上する	歌 奉る
② 補助動詞・謙譲	連用形 ＋奉る	～申し上げる	思ひ 奉る
③ 本動詞・尊敬	貴人が自分で 着る・乗る・食べる（飲む）場面の、衣服・乗り物・飲食物＋奉る	お召しになる／お乗りになる／召し上がる	宮、御衣 奉り て出で給ふ

識別の鉄則

- 直前が動詞の連用形**（見・思ひ など）→ **補助動詞・謙譲**「～申し上げる」。
- 直前が体言**で、貴人に**差し出す物**（歌・文 など）→ **本動詞・謙譲**「差し上げる」。衣服・乗り物・飲食物でも、貴人に差し出す場面ならこれ（宮に御衣を奉る）。
- 直前が体言**で、**貴人が自分で**衣服を着る・乗り物に乗る・飲食物を食べる（飲む）場面（御衣・御車に・御薬 など）→ **本動詞・尊敬**「お召しになる／お乗りになる／召し上がる」。主語（だれが着る・乗る・食べるか）を確かめる。
- 「奉る」は基本「謙譲」。貴人が着る・乗る・食ふ（飲む）場面だけ尊敬、と覚える。
- 敬意の方向は、謙譲の「奉る」なら**動作の受け手**（差し上げる相手・～申し上げる相手）へ、尊敬の「奉る」なら**動作の主体**（着る・乗る・食べる人）へ。

🎯 解き方のコツ（試験本番ですばやく）

コツ① まず直前が連用形か体言か

- 連用形＋奉る（見奉る・思ひ奉る）→ 補助動詞「～申し上げる」。

- ・ 体言＋奉る → 本動詞。次に「貴人に差し出すのか・貴人が自分で着る／乗る／食べるのか」で訳を決める。

コッ② 体言なら「差し出す」のか「貴人が着る・乗る・食べる」のか

- ・ ふつうの物（歌・文・贈り物）→「差し上げる」（謙譲）。
- ・ 衣服・乗り物・飲食物は主語を見る。貴人が自分で着る（御衣）→「お召しになる」、乗る（御車に）→「お乗りになる」、食べる・飲む（御薬）→「召し上がる」（いずれも尊敬）。
- ・ 衣服・乗り物・飲食物でも、貴人に差し出す（「宮に御衣を奉る」「院に御馬を奉る」）なら「差し上げる」（謙譲）。

コッ③ 「奉る」は原則謙譲、貴人が着る・乗る・食ふときだけ尊敬

- ・ 迷ったら謙譲（差し上げる／～申し上げる）。
- ・ 「お召しになる・お乗りになる・召し上がる」と訳すのは、貴人が自分で衣服を着る・乗り物に乗る・飲食物を食べる（飲む）場面だけ。

よくある引っかけ

- ・ 「奉り給ふ」は謙譲「奉る」（受け手への敬意）＋尊敬「給ふ」（主体への敬意）で、**二方面（二方向）の敬語**。二重敬語（「せ給ふ」など、同じ人への尊敬を重ねたもの）ではない。
- ・ 「御衣」「御車」「御薬」があっても、すぐ前が連用形（着せ・乗せ・すすめ など）なら補助動詞の謙譲（御衣着せ奉る＝お着せ申し上げます）。
- ・ 「参る」（行くの謙譲＝参上）と「奉る」（与ふの謙譲＝差し上げる）の重点の違い。
- ・ 敬意の方向は、謙譲の「奉る」なら動作の受け手、尊敬の「奉る」（着る・乗る・食ふ）なら動作の主体。いつも受け手とはかぎらない。

採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

本動詞（差し上げる）・補助動詞（～申し上げる）・尊敬（お召しになる等）を見分ける。

Q1. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

歌奉る。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「歌」は体言（差し出す物）。本動詞で「与ふ」の謙讓＝「歌を差し上げる」。謙讓。

Q2. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

思ひ奉る。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「思ひ」は四段「思ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お思い申し上げる」。謙讓。

Q3. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

文奉る。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「文」は体言（差し出す物）。本動詞で「お手紙を差し上げる」。謙讓。

Q4. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

宮、御衣（おんぞ）奉りて、月を見給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。「御衣」は衣服で、宮が自分で着て月を見る場面（差し上げる相手はいない）。「着る」の尊敬＝「お召し物をお召しになって、月をご覧になる」。尊敬。

Q5. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

待ち奉る。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「待ち」は四段「待つ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お待ち申し上げる」。謙讓。

Q6. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

姫君、御車（みくるま）に**奉る**。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お乗りになる） **解説：**主語は「姫君」（貴人）。「御車に」と乗り物に「に」がつき、姫君が自分で乗る場面。「乗る」の尊敬＝「お車にお乗りになる」。尊敬。

Q7. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

贈り物**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「贈り物」は体言（差し出す物）。本動詞で「贈り物を差し上げる（献上する）」。謙讓。

Q8. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

見**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「拝見する（見申し上げる）」。謙讓。

Q9. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

宮、御薬（くすり）**奉り**て、臥し給ひぬ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。宮が自分で薬を飲んで横になる場面。「飲む」の尊敬＝「お薬を召し上がって、横におなりになった」。尊敬。

Q10. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

薫物（たきもの）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「薫物」は体言（差し出す物＝練り香）。本動詞で「薫物（練り香）を差し上げる」。謙讓。

Q11. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

頼み**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「頼み」は四段「頼む」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お頼り申し上げる」。謙讓。

Q12. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

姫君、紅（くれなる）の御袴（はかま）**奉り**て、み給へり。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「姫君」（貴人）。姫君が自分で袴を着けて座っている場面。「着る」の尊敬＝「紅のお袴をお召しになって、座っていらっしゃる」。尊敬。

Q13. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

花**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「花」は体言（差し出す物）。本動詞で「花を差し上げる」。謙讓。

Q14. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

迎へ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「迎へ」は下二段「迎ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お迎え申し上げる」。謙讓。

Q15. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

院、御舟（ふね）に**奉る**。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お乗りになる） **解説：**主語は「院」（貴人）。「御舟に」と乗り物に「に」がつき、院が自分で乗る場面。「乗る」の尊敬＝「お舟にお乗りになる」。尊敬。

Q16. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御返り**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御返り」は体言（差し出す物＝返事）。本動詞で「お返事を差し上げる」。謙讓。

Q17. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

送り**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「送り」は四段「送る」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お送り申し上げる」。謙讓。

Q18. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

神に御酒（みき）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**「神に」と差し上げる相手があり、「御酒」は差し出す物。本動詞で「神にお酒を差し上げる」。謙讓。（飲食物でも、自分が飲むのではなく差し出す場面なので尊敬ではない。）

Q19. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

殿、御狩衣（かりぎぬ）**奉り**て、野に出で給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「殿」（貴人）。「御狩衣」は衣服で、殿が自分で着て野に出かける場面。「着る」の尊敬＝「狩衣をお召しになって、野にお出かけになる」。尊敬。

Q20. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

数珠（ずず）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「数珠」は体言（差し出す物）。本動詞で「数珠を差し上げる」。謙讓。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

体言か連用形か、貴人に差し出すのか貴人が自分で着る・乗る・食べるのかを確実に見分ける。

Q21. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御消息（せうそこ）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御消息」は体言（手紙・便り）。本動詞で「お便りを差し上げる」。謙讓。

Q22. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

慰め**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「慰め」は下二段「慰む」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お慰め申し上げる」。謙讓。

Q23. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

寒き夜なれば、宮は御衣（おんぞ）かさねて**奉る**。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。寒い夜なので、宮が自分でお召し物を重ねて着る場面。「着る」の尊敬＝「寒い夜なので、宮はお召し物を重ねてお召しになる」。「かさねて」の「て」の後なので本動詞。尊敬。

Q24. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御琴（こと）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御琴」は体言（差し出す物＝楽器）。本動詞で「お琴を差し上げる」。謙讓。

Q25. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

知り**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「知り」は四段「知る」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「存じ上げる」。謙讓。

Q26. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

上（うへ）、御湯（ゆ）少し**奉り**て、大殿籠（おほのごも）りぬ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「上」（貴人）。上が自分でお湯を少し飲んでお休みになる場面。「飲む」の尊敬＝「お湯を少し召し上がって、お休みになった」（「大殿籠る」は「寝」の尊敬）。尊敬。

Q27. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御鏡（かがみ）**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御鏡」は体言（差し出す物）。本動詞で「お鏡を差し上げる」。謙譲。

Q28. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

守り**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「守り」は四段「守る」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お守り申し上げる」。謙譲。

Q29. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

院は、御直衣（なほし）**奉り**て、端（はし）近くおはします。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「院」（貴人）。院が自分で直衣を着て、端近く（縁側の近く）にいらっしゃる場面。「着る」の尊敬＝「直衣をお召しになって、端近くにいらっしゃる」。尊敬。

Q30. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御文を書きて**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**「書きて」の後、物（御文）を差し出す本動詞。「お手紙を書いて差し上げる」。謙譲。

Q31. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

大将、御馬（むま）に**奉り**て、急ぎ給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お乗りになる） **解説：**主語は「大将」（貴人）。「御馬に」と乗り物に「に」がつき、大将が自分で馬に乗る場面。「乗る」の尊敬＝「お馬にお乗りになって、お急ぎにな

る」。尊敬。

Q32. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御覧ぜさせ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「御覧ぜさせ」は連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お見せ申し上げる」。謙讓。

Q33. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

殿、御酒（みき）あまた**奉り**て、酔ひ給ひぬ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「殿」（貴人）。殿が自分でお酒をたくさん飲んで酔う場面。「飲む」の尊敬＝「お酒をたくさん召し上がって、お酔いになった」。尊敬。

Q34. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

玉（たま）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「玉」は体言（差し出す物）。本動詞で「玉を差し上げる」。謙讓。

Q35. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

助け**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「助け」は下二段「助く」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お助け申し上げる」。謙讓。

Q36. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御扇（あふぎ）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御扇」は体言（差し出す物）。本動詞で「お扇を差し上げる」。謙讓。（扇は手に持つ物で、着用の衣服ではないため謙讓。）

Q37. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

殿、御装束（さうぞく）**奉り**て、内裏（うち）へ参り給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「殿」（貴人）。「御装束」は衣服（正装）で、殿が自分で着て宮中へ参上する場面。「着る」の尊敬＝「ご装束をお召しになって、宮中へ参上なさる」。尊敬。

Q38. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御文を見せ**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「見せ」は下二段「見す」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お見せ申し上げる」。謙譲。

Q39. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

帝、御膳（おももの）少し**奉り**て、夜（よる）の御殿（おとど）に入らせ給ひぬ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「帝」。帝が自分でお食事を少し食べて、ご寝所にお入りになる場面。「食ふ」の尊敬＝「お食事を少し召し上がって、夜の御殿（ご寝所）にお入りになった」。尊敬。

Q40. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御土産（つと）**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御土産」は体言（差し出す物）。本動詞で「お土産を差し上げる」。謙譲。

Q41. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

恋ひ**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「恋ひ」は上二段「恋ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お慕い申し上げる」。謙譲。

Q42. 次の傍線部「奉れ」を識別せよ。

宮は、鈍色（にびいろ）の御衣（おんぞ）**奉れ**り。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。宮が着ている姿を述べる文。「奉れ」は四段の已然形（命令形とする説もある）で、下の「り」は存続。「着る」の尊敬＝「宮は、鈍色（喪の色）のお召し物をお召しになっている」。尊敬。

Q43. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御硯（すずり）**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御硯」は体言（差し出す物）。本動詞で「お硯を差し上げる」。謙譲。（着る・乗る・食べる物ではないので尊敬ではない。）

Q44. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

いつき**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「いつき」は四段「いつく」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「大切にお世話申し上げる」。謙譲。

Q45. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

若君、御果物（くだもの）**奉り**て、「いとあまし」とのたまふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「若君」（貴人の子）。若君が自分で果物を食べて「とても甘い」と言う場面。「食ふ」の尊敬＝「果物を召し上がって、『とても甘い』とおっしゃる」。尊敬。

Q46. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御經（きやう）**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御經」は体言（差し出す物・奉納する物）。本動詞で「お経を差し上げる（奉納する）」。謙譲。

Q47. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

慕ひ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「慕ひ」は四段「慕ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お慕い申し上げる」。謙讓。

Q48. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

大臣（おとど）、紫の御指貫（さしぬぎ）**奉り**て、歩み出で給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「大臣」（貴人）。「御指貫」は衣服（袴の一種）で、大臣が自分で着て歩み出る場面。「着る」の尊敬＝「紫の指貫をお召しになって、歩み出なさる」。尊敬。

Q49. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御琵琶（びは）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御琵琶」は体言（差し出す物＝楽器）。本動詞で「お琵琶を差し上げる」。謙讓。

Q50. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

殿、御湯漬（ゆづけ）**奉り**て、急ぎ出で給ひぬ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「殿」（貴人）。殿が自分で湯漬けを食べながら急いで出かける場面。「食ふ」の尊敬＝「お湯漬けを召し上がって、急いでお出かけになった」。尊敬。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

二方面の敬語「奉り給ふ」、衣服・乗り物・飲食物の尊敬と謙讓、紛らわしい文脈を見分ける。

Q51. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

御文を**奉り**給ふ。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**「奉り」連用形、直前「御文を」（物）で本動詞「差し上げる」。後ろの「給ふ」は尊敬。謙讓「奉る」は手紙を受け取る人への敬意、尊敬「給ふ」は手紙を出す人（主語）への敬意で、二方面（二方向）の敬語。「お手紙を差し上げなさる」。

Q52. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御衣（おんぞ）着せ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「着せ」は下二段「着す」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お召し物をお着せ申し上げる」。衣服（御衣）があっても、直前が連用形なので尊敬ではなく補助動詞の謙讓。

Q53. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

春宮（とうぐう）に太刀（たち）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**「春宮に」と差し上げる相手があり、「太刀」は差し出す物。本動詞で「春宮に太刀を差し上げる（献上する）」。謙讓。

Q54. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御粥（かゆ）すすめ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「すすめ」は下二段「すすむ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お粥をおすすめ申し上げる」。飲食物（御粥）があっても、直前が連用形なので尊敬ではなく補助動詞の謙讓。

Q55. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御車に乗せ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「乗せ」は下二段「乗す」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お車にお乗せ申し上げる」。乗せる主語は話し手側なので謙讓。

Q56. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

暑き日なれば、宮は御単衣（ひとへ）ばかり**奉り**て、臥し給へり。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。暑い日なので、宮が単衣だけを着て横になっている場面。「着る」の尊敬＝「暑い日なので、宮は単衣だけをお召しになって、横になっていらっしゃる」。尊敬。

Q57. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御調度（てうど）**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御調度」は体言（道具類＝差し出す物）。本動詞で「お道具を差し上げる」。謙譲。

Q58. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

思ひ**奉り**給ふ。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「奉り」は連用形「思ひ」の後で補助動詞「～申し上げる」。後ろの「給ふ」は尊敬。謙譲「奉る」は思われる相手への敬意、尊敬「給ふ」は主語への敬意で、二方面（二方向）の敬語。「お願い申し上げなさる」。

Q59. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

雨降れば、宮は御車（みくるま）に**奉り**て帰り給ひぬ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お乗りになる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。「御車に」と乗り物に「に」がつき、宮が自分で車に乗って帰る場面。「乗る」の尊敬＝「雨が降るので、宮はお車にお乗りになってお帰りになった」。尊敬。

Q60. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

宮を隠し**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「隠し」は四段「隠す」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「宮をお隠し申し上げる」。謙譲。

Q61. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御衣（おんぞ）を縫ひて**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**「縫ひて」の後、物（御衣）を差し出す本動詞。
「お召し物を縫って差し上げる」。着る動作ではないので謙讓。

Q62. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

仏を供養し**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「供養し」はサ変「供養す」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「仏をご供養申し上げる」。謙讓（仏への敬意）。

Q63. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

姫君、椿餅（つばいもちひ）など少し**奉り**て、絵など御覧ず。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「姫君」（貴人）。姫君が自分で椿餅を少し食べて、絵をご覧になる場面。「食ふ」の尊敬＝「椿餅などを少し召し上がって、絵などをご覧になる」。尊敬。

Q64. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御琴を教へ**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「教へ」は下二段「教ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お教え申し上げる」。謙讓。

Q65. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

砂金（さきん）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「砂金」は体言（差し出す物）。本動詞で「砂金を差し上げる（献上する）」。謙讓。

Q66. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

女御（にようご）、御小桂（こうちき）**奉り**て、御簾（みす）のうちにおはします。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「女御」（貴人）。女御が自分で小桂を着て、御簾の中にいらっしゃる場面。「着る」の尊敬＝「小桂をお召しになって、御簾の内にいらっしゃる」。尊敬。

Q67. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御文持ちて**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**「持ちて」の後、物（御文）を差し出す本動詞。「お手紙を持って差し上げる」。謙譲。

Q68. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

仕へ**奉り**けり。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「仕へ」は下二段「仕ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お仕え申し上げた」。謙譲。

Q69. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御衾（ふすま）**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御衾」は寝具（かける物）。本動詞で「お夜具を差し上げる」。着用物でないので謙譲。

Q70. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

帝、御輿（みこし）に**奉り**て、出でさせ給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お乗りになる） **解説：**主語は「帝」。「御輿に」と乗り物に「に」がつき、帝が自分で輿に乗ってお出かけになる場面。「乗る」の尊敬＝「御輿にお乗りになって、お出かけになる」。尊敬。

Q71. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

帝をいさめ**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「いさめ」は下二段「いさむ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「帝をお諫め申し上げる」。謙譲。

Q72. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御櫛（くし）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御櫛」は体言（差し出す物）。本動詞で「お櫛を差し上げる」。謙讓。

Q73. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

姫君、萌黄（もえぎ）の御桂（うちぎ）**奉り**て、琴（こと）弾き給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「姫君」（貴人）。姫君が自分で桂を着て琴を弾く場面。「着る」の尊敬＝「萌黄色の桂をお召しになって、琴をお弾きになる」。尊敬。

Q74. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御杖（つゑ）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御杖」は体言（差し出す物）。本動詞で「お杖を差し上げる」。謙讓。（手に持つ物で着用物ではないため謙讓。）

Q75. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

姫君をいみじうかしづき**奉り**て。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「かしづき」は四段「かしづく」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「姫君をたいそう大切にお育て申し上げて」。謙讓。

Q76. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

院、御湯（ゆ）など**奉り**て、御物語せさせ給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「院」（貴人）。院が自分でお湯などを飲んで、お話をなさる場面。「飲む」の尊敬＝「お湯などを召し上がって、お話をなさる」。尊敬。

Q77. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

黄金（こがね）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「黄金」は体言（差し出す物）。本動詞で「黄金を差し上げる（献上する）」。**謙讓。**

Q78. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

大将、御直垂（ひたたれ）**奉り**て、馬に乗り給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語は「大将」（貴人）。大将が自分で直垂を着て馬に乗る場面。「着る」の尊敬＝「直垂をお召しになって、馬にお乗りになる」。尊敬。

Q79. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

若宮を抱（いだ）き**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「抱き」は四段「抱く」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「若宮をお抱き申し上げる」。**謙讓。**

Q80. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御屏風（びやうぶ）**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**直前「御屏風」は体言（差し出す物＝調度）。本動詞で「御屏風を差し上げる」。着る・乗る・食べる物ではないので**謙讓**。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

文脈・対象を総合して、本動詞（差し上げる）・補助動詞・尊敬を判別する。

Q81. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

帝に琴を**奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**差し出す物「琴を」が直前。本動詞で「帝にお琴を差し上げる」。**謙讓。**

Q82. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

上、御衣（おんぞ）**奉り**て出でさせ給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**主語「上」（帝）、対象「御衣」（衣服）。「着る」の尊敬＝「お召し物をお召しになって」。尊敬。

Q83. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

後に文を**奉り**給ふ。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**「奉り」連用形、直前「文を」（物）で本動詞「差し上げる」。「給ふ」は尊敬。謙譲「奉る」は后（受け手）への敬意、尊敬「給ふ」は手紙を出す人（主語）への敬意で、二方面（二方向）の敬語。「后にお手紙を差し上げなさる」。

Q84. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

あけくれ思ひ**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「思ひ」は四段連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「明け暮れお思い申し上げます」。謙譲。

Q85. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御冠（かうぶり）し、御袍（はう）**奉る**。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**直前「御袍」は衣服（正装の上着）。「着る」の尊敬＝「お袍をお召しになる」。尊敬。

Q86. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御念誦の数珠を**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**差し出す物「数珠を」が直前。本動詞で「お念誦の数珠を差し上げる」。謙譲。

Q87. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

いとほしと見**奉る**。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「気の毒だと拝見する」。謙讓。

Q88. 次の傍線部「奉れ」を識別せよ。

壺なる御薬（みくすり） **奉れ**。きたなき所の物きこしめしたれば、御心地悪しからむものぞ。
（竹取物語）

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**天人がかぐや姫に言う言葉。続く「きこしめし（＝召し上がった）たれば、御心地悪しからむ」から、かぐや姫に薬を飲ませる場面とわかる。「奉れ」は四段の命令形で、「飲む」の尊敬＝「壺のお薬を召し上がれ。汚れた所（人間の世界）の物を召し上がったので、ご気分が悪いでしょう」。尊敬。

Q89. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

院に御馬（むま）を **奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**「院に」と差し上げる相手があり、「御馬を」は差し出す物。本動詞で「院にお馬を差し上げる（献上する）」。「乗り物でも、自分が乗るのではなく差し出す場面なので謙讓（「御馬に奉る」＝お乗りになる、と区別）。

Q90. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

御供に仕へ **奉り**けり。

答え：補助動詞・謙讓「奉る」（～申し上げる） **解説：**「仕へ」は下二段連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「お供としてお仕え申し上げた」。謙讓。

Q91. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御前に花を **奉る**。

答え：本動詞・謙讓「奉る」（差し上げる） **解説：**差し出す物「花を」が直前。本動詞で「御前に花を差し上げる」。謙讓。

Q92. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

宮、御くだもの少し **奉り**などして、起き居（ゐ）給へり。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「宮」（貴人）。宮が自分で果物を少し食べなどして、起きて座っている場面。「食ふ」の尊敬＝「果物を少し召し上がったりして、起きて座っていच्छやる」。尊敬。

Q93. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

幼き宮を御馬（むま）にませ**奉り**て、口を取りて行く。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「ませ」は下二段「乗す」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「幼い宮をお馬におませ申し上げて、（馬の）口を取って行く」。乗せるのは宮に仕える人で謙譲（宮が自分で乗る尊敬の「御馬に奉る」とは違う）。

Q94. 次の傍線部「奉れ」を識別せよ。

白き御衣（おんぞ）**奉れ**る御さま、いとめでたし。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**「奉れ」は四段の已然形（命令形とする説もある）、「る」は存続「り」の連体形。白いお召し物を着ている貴人の様子（御さま）をほめる文なので、着る動作。「着る」の尊敬＝「白いお召し物をお召しになっているご様子は、たいそうすばらしい」。尊敬。

Q95. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

御志（こころざし）深く頼み**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（～申し上げる） **解説：**「御志」は相手（貴人）のお気持ち。「頼み」は四段「頼む」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「（あの方の）お気持ちが深いので、頼りにし申し上げます」。謙譲。

Q96. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

宝物（たからもの）を**奉る**。

答え：本動詞・謙譲「奉る」（差し上げる） **解説：**差し出す物「宝物を」が直前。本動詞で「宝物を差し上げる（献上する）」。

Q97. 次の傍線部「奉ら」を識別せよ。

御心地悪しくて、上（うへ）は御粥（かゆ）をだにえ**奉らず**。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（召し上がる） **解説：**主語は「上」（貴人）。ご気分が悪くて、上がお粥さえ食べられない場面。「奉ら」は四段の未然形、「え〜ず」は「〜できない」。「食ふ」の尊敬＝「ご気分が悪くて、上はお粥さえ召し上がることがおできにならない」。尊敬。

Q98. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

御几帳（きちやう）引き寄せ**奉り**て。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（〜申し上げる） **解説：**「引き寄せ」は下二段連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「御几帳を引き寄せ申し上げて」。謙譲。

Q99. 次の傍線部「奉り」を識別せよ。

女房の縫ひて奉りし御衣（おんぞ）を、宮、やがて**奉り**て出で給ふ。

答え：本動詞・尊敬「奉る」（お召しになる） **解説：**前の「奉りし」は、女房が宮に「差し上げた」（謙譲）。傍線部の主語は「宮」で、差し上げられたお召し物をすぐに着て出かける場面。「着る」の尊敬＝「女房が縫って差し上げたお召し物を、宮はすぐにお召しになってお出かけになる」。尊敬。

Q100. 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

はるかに恋ひ**奉る**。

答え：補助動詞・謙譲「奉る」（〜申し上げる） **解説：**「恋ひ」は上二段「恋ふ」連用形。連用形＋奉るで補助動詞。「はるかに慕い申し上げる」。謙譲。

採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「奉る」の**直前の語**と、**だれが何をする場面か**をもう一度確認しましょう。

- **本動詞・謙譲「差し上げる」**…体言（貴人に差し出す**物**）＋奉る。「歌奉る」「文奉る」。衣服・乗り物・飲食物でも差し出すならこちら（「院に御馬を奉る」）。
- **補助動詞・謙譲「〜申し上げる」**…**連用形**＋奉る。「思ひ奉る」「見奉る」。

- **本動詞・尊敬**「お召しになる／お乗りになる／召し上がる」…貴人が自分で着る・乗る・食べる（飲む）場面の、衣服・乗り物・飲食物＋奉る。「宮、御衣奉りて出で給ふ」「姫君、御車に奉る」「宮、御薬奉りて臥し給ひぬ」。
- 「奉る」は原則謙譲、貴人が着る・乗る・食ふ（飲む）場面だけ尊敬。

直前の語と、だれが何をする場面かを見れば見分けられます。敬意の方向（謙譲は受け手へ、尊敬は主体へ）も合わせて押さえましょう。

この問題集は無料です。古文の他の敬語（給ふ・参る・侍り候ふ）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennoyennsei.com>) ／ 個別指導塾フィット・中本裕太